

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800620		
法人名	株式会社ニッケ・ケアサービス		
事業所名	ニッケ てとて市川		
所在地	千葉県市川市北方1-3-7		
自己評価作成日	令和3年8月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	令和3年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1日1日をまずはご入居者様が楽しく過ごせ、職員も一緒に楽しめる環境である。あくまでもご入居者様が主役である事は忘れない。 可能な限り外出を行う。その為に、食事の部分を簡略化した。 最後の住み家となる為に、看取りを行う。その為に機械浴などの設備がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ニッケてとて市川」は住宅地の中にあり、地域に根差した施設運営を目指している。また、小規模保育園が併設されており、世代間交流が可能な環境となっている。地域との交流や地域行事等の参加については、施設開所以降、新型コロナウイルス感染対策の為、実施していないが、近隣住民とは外掃除の際に、挨拶を交わしていると共に、リハビリパンツの寄付等も受ける関係を築いている。また、1日1回外出することを目標として日頃から散歩・買物・ドライブ等の外出を支援しており、地域との関係を大切にしている。家族に対しては、定期的に入居者の様子を掲載した報告書を写真入りで発行し、施設での生活や活動状況を伝えていると共に、「てとて市川だより」を発行しており、家族との信頼関係構築や施設の理解促進に活かしている。医療面については、看護師の配置、医療機関への受診支援、往診医、訪問歯科、訪問マッサージとの連携により、入居者・家族共に安心して生活が送れる体制を構築している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人として、地域ナンバーワンをキーワードにしている。しかし、開設よりまだまだ地域への知名度が低いと考えているが、新型コロナにて地域参加が出来ていない。	「1日1回外出する」「気付きを大切にする」「チームケアで取り組む」を理念として掲げると共に、施設内に掲示し、職員及び家族等へ周知している。また、毎月実施しているフロア会議で共有化を図り、理念に基づいたサービスの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時より新型コロナウイルスにて地域への参加を控えている状況にて、一方的ではあるが、文章等にて継続的情報提供をしている。	近隣住民とは外掃除の際に、挨拶を交わしていると共に、リハビリパンツの寄付等も受ける関係を築いている。管理者が地域の介護相談会に参加しており、地域の方々の相談に対応している。同法人の保育園が併設されているが、新型コロナウイルス感染対策の為、交流等は見合わせている。また、地域との交流や地域行事の参加は中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設1年目にてまだ不足しているが、職員が認知症指導者にて認知症啓蒙活動には積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスにて参加型の運営推進会議が出来ていない	市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・町内会会長・利用者・家族・施設職員等を構成員として、年6回、運営推進会議を開催している。会議では施設の活動報告や意見交換を行い、施設理解の促進を図ると共に、サービスの向上に努めている。新型コロナウイルス感染対策の為、会議は構成員と書面による意見交換を行い、議事録を配布する形で実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上での相談には積極的に受けてくださっている。令和3年6月より高齢者サポートセンターにおいて、認知症地域支援推進員が配置されたので、連携を構築したい。	日頃から市に対して、業務上の相談・報告を行う等、連携を図っている。昨年の4月からは、新型コロナウイルス感染対策の為、市との連携については、メール等を活用して行っており、非常災害時の対応、新型コロナワクチンの摂取状況等、必要に応じた情報の共有を図っていると共に、認知症研修の案内等を受けている。	

【千葉県】ニッケととて市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オリエンテーション時及びリスク委員会より常に身体拘束しない旨を伝達しており、「座ってて」はしない取り組みをしている。	身体拘束排除における指針やマニュアルを整備していると共に、内部研修を実施しており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。また、身体拘束適正化検討委員会を定期的に関催しており、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	令和3年度に千葉県主催の研修に基礎課程・管理者課程に参加予定。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人および外部研修を活用し制度理解に努めているが、人間的に参加が現状困難		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お問い合わせや見学時より利用前に読んでいただく、リーフレットを配布しており、管理者を窓口として、適切な対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置がまだできていないために改善が必要と思われる。また、1年を経過した為に、家族様等へのアンケート実施を検討中	家族の面会時や電話連絡・運営推進会議を通して、意見や要望を確認している。挙げた意見・要望においては、会議や申し送りで周知・検討を図り、適切な対応に努めている。定期的に入居者の様子を掲載した報告書を写真入りで発行し、施設での生活や活動状況を伝えている。その他、「てとて市川だより」を3か月に1回発行しており、行事の写真の掲載や運営推進会議参加の呼びかけ等を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱の設置がまだできていないために改善が必要と思われる。また、2年を経過した為に、家族様等へのアンケート実施を検討中	毎月フロア会議を開催しており、職員の意見・要望の確認や入居者のカンファレンスを行っている。また、毎月リーダー会議を開催しており、各ユニットのリーダーと管理者で運営に関する検討を行っている。年間計画に基づいた研修を実施しており、適切な人材育成にも取り組んでいる。その他、柔軟な希望休の導入や夜勤専門職員の配置により、働きやすい環境づくりに努めている。	

【千葉県】ニッケととて市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ワークライフバランスの重要性を十分理解しており、年齢や経験年数ではなく、当事業所での努力や実績を客観的に判断している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を積極的にしたいが、人員がギリギリなので、研修参加が不足している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関東エリアに通所介護・有料老人ホーム、居宅介護支援事業所があるので、勉強会等は計画しているが、現段階では、ストップしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前への面談よりアセスメントを行い、入居後1週間は強化週間として、日々の様子等をカルテ記入と申し送りノートにて情報収集を行っている。しかし、当初はセンター方式活用予定も上手くいかず、課題。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時より事業所としてできる事、できない事などを明確について、契約前の重要説明パンフレットを配布している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時等に有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅との違いや小規模多機能などとの違いを説明し、医療面での家族様の重要性も説明している、		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフとの関係構築よりも入居者様同士の関係構築を意識的に仲介している。		

【千葉県】ニッケてとて市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されてからの家族様参加型のグループホームとして、説明をしており、外出や外泊を積極的に促す。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家具等は持ち込み式の為に一定の効果はあると考えております。しかし、外出などを行い、本人様の馴染みにはまだ行けていない。	家族との面会や外出・外泊も可能となっており、家族との関係継続を支援している。また、地域の道の駅・コンビニ等での買い物やドライブ等を通して、馴染みの場所との関係も大切にしている。その他、3か月に1回、地域の訪問美容を活用している。しかし、昨年の4月からは、新型コロナウイルス感染対策の為に、地域との交流や地域行事の参加は中止している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が楽しみたい時と一人になりたい時を日々スタッフにて様子を見ていられる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の情報提供は担当ケアマネジャーや病院相談員への引継ぎをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントにて把握を行い、定期的に家族様からのヒヤリングや本人様の会話から情報収集をしている。	入所前に、本人や家族から意向・生活歴・身体状況等を確認すると共に、他事業所や医療機関から情報を収集しており、詳細な情報把握に努めている。また、日頃から入居者とのコミュニケーションや家族との相談を通して個々の意向や思いを把握しており、本人本位のサービス提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式活用が出来ておらず、不十分である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式活用が出来ておらず、不十分である。		

【千葉県】ニッケてとて市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者(管理者)が作成しており、申し送り等で説明等はしているが不十分であると思う。	本人・家族の意向を確認した上で、検討会議を行い、介護計画を作成している。定期的にモニタリングや介護計画の見直しを行っていると共に、必要に応じた介護計画の見直しも行っており、現状に即した介護計画に基づく支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録については、個人カルテ、申し送りノート及び申し送りにて十分な気づきがあるが、計画書まで反映できていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだ、事業所内での課題が多く有り、柔軟な支援やサービスまでできていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ不十分である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医「にいほりクリニック」との連携はしっかりできているが、市川市の配置にない為に、課題はある。	家族の協力や職員の同行により、希望する医療機関の受診を支援している。また、定期的に協力病院の医師による往診が実施されていると共に、訪問歯科が実施されており、適切な医療支援が行われている。緊急時や急変時においては、協力病院の医師との連携により、迅速な対応に努めており、入居者や家族の安心に繋げている。その他、必要に応じて訪問マッサージとの連携も図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤においては、非常勤看護師を配置しているが、夜間等への不安が課題で有る。		

【千葉県】ニッくてとて市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院等との連携は密に行っており、早期退院を意識し、認知症進行抑制にも対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、1名の方を看取りをした経験があるが、家族様・入居者様の思いへの対応は多様化しており、今後課題があると思われる。	重度化・終末期における施設の方針を明文化しており、入居者・家族への意向確認の上、同意を得ている。重度化・終末期においては、協力病院の医師と24時間連絡が取れる体制となっており、施設として出来る限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルにおいて、徹底できており、救急車を呼ぶことをためらわない体制ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練実施ができていない。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報装置等の消防設備を設置していると共に、災害時に備え、備蓄品も確保している。消防設備点検については、年2回実施しているが、新型コロナウイルス感染対策の為、消防署との連携による避難訓練等は実施されていない。市とは非常災害時の対応を共有し、協力体制を構築している。	現在、消防署との連携による避難訓練の実施は難しいと思われませんが、定期的に自主訓練等を実施し、災害時の対応に備えていただくことを望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ルールとして、「座ってて」は言わないなどグループホームとしてでなく、「人」としての対応を意識するように運営している。	プライバシー・接遇マニュアル等を整備すると共に、研修・会議を通じて職員の周知・理解促進を図っている。また、入居者一人ひとりに対する対応については、個別指導が行われており、適切な対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望への対応にはまだまだ課題がある。		

【千葉県】ニッケととて市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員不足な部分がある為に、入浴等安全・安心を意識する為に、入居者優先にならない部分がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時等に衣類の選択などできていると思われる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立としては決まっているが、定期的に好みの確認などを行い、取組として食事を楽しむ仕組みはある。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付けを共同で行っている。また、行事食・手作りおやつ・テイクアウト等を企画・実施しており、季節や旬を楽しみながら食事できるよう配慮している。食事については、入居者一人ひとりに合わせた形態での提供がなされている。その他、入居者の誕生日に誕生会を実施しており、ケーキを提供し、入居者及び職員で楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給が大きな課題ではある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様が自ら積極的に行っており、介助が必要な方にも確実にできている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間においては、睡眠を優先するのか？排泄を優先するのか？をスタッフ間で相談せず場合もあるが概ね習慣把握はできている。	排泄状況を記録しながら入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にてトイレでの排泄を支援している。また、日頃から、食事・水分の配慮や食事前後の体操の実施により、便秘解消に努めている。必要に応じて医師と相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	

【千葉県】ニッケととて市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給が大きな課題ではある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴実施をしており、入浴できる仕組み作りはできている。	入浴は週3回実施していると共に、必要に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。機械浴槽も配置されており、身体状況に合わせた支援を行っている。また、入浴剤を使用した入浴や菖蒲湯・柚子湯を実施しており、入浴の楽しみを支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠者に関しては、入眠できるように足浴やホットミルクなどの対応及び日中からの活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居時に家族様や本人へ可能な限りの減薬に努める説明及び、誤薬や服薬忘れがないように、服薬支援ロボの使用をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った役割等を提供できるようにスタッフ間にて申し送りや会議での検討をしているが、まだまだ不十分		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	運営のコンセプトとして、1日1回は外に出るを挙げており、天候や本人の体調を考えて散歩等に積極的に出ているが、人員面での課題有り。	日頃から散歩・買物・ドライブ等の外出を支援している。また、家族の協力の下、希望に応じて外出や外泊も行っている。1日1回外出することを目標として散歩や外気浴を行っていると共に、室内でのレクリエーションや行事の充実化に努めており、入居者の気分転換や心身の活性化を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に財布の所持確認をしている。現金を持つ方やICカードを持つ方もおられ、定期的に確認もしている。		

【千葉県】ニッケてとて市川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に携帯等の所持も確認しており、適切な時間帯については、スタッフにて取次のお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては、可能な限りの馴染みの家具等を持参してもらっている。フロアに関しては、四季や行事に応じた空間づくりをしている。	施設はバリアフリー環境が整っており、入居者の安全面に配慮した設計となっている。共有スペースには、椅子・テーブル・ソファ等が設置されていると共に、季節感を取り入れた空間づくりがなされており、居心地よく自由にくつろげる環境整備がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士間での会話は多いもトラブル時等が続く場合は席の配置検討を行っている。また、スペース的に一人の空間としては、居室か相談室となる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室においては、可能な限りの馴染みの家具等を持参してもらっている。フロアに関しては、四季や行事に応じた空間づくりをしている。	入居者や家族が馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く安心した生活ができるよう配慮している。また、、エアコンによる適切な空調管理や鍵の設置によるプライバシーの確保等、入居者が安全かつ快適に過ごせる環境が整備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全・安心をまだ意識している為に、洗濯場などは施錠しているので、入居者様が「できる」洗濯などはまだ活用できていない。		